

日頃から専門的な研究や地域活動等で活躍する学生たち。コロナ禍で様々な活動が制限されている中でも、大学における専門分野の学びを活かし、それぞれのフィールドで主体的に活動する学生・団体を紹介します。

特集1

地域で輝く島大生



12/26~28に開催した教室の様子。大学生と小学生がペアになってクイズや問題に取り組みました。企画以外でも益田市の魅力や人々に触れ合う機会もあり、島大生にとっても益田市の魅力を知るきっかけになりました。



生物資源科学部
環境共生科学科 2年
森下 梨那 さん

自分の生き方をデザインする!

キャリアデザインプログラムは、島根大学で学ぶ専門分野を活かして、自身のキャリアをデザインする力を身につけるためのプログラムです。私は、大学生のうちに行動力や計画性を持ち、自分が興味を持つものにたくさん挑戦したいと思い、このプログラムに参加しました。



Case 2

益田市

苦手意識を払拭! 算数・数学パワーアップ教室

市教育委員会と連携して 理科科目の魅力伝える

小中学生の中には理科科目に苦手意識を持つ子どもも多く、この苦手意識を取り除くことは大きな課題です。キャリアデザインプログラムの一環で、益田市教育委員会と連携し、益田市内の小中学生に理科科目の魅力伝えるプロジェクトに参加しました。

準備では、小学生と中学生2つの運営チームに分かれ、教育委員会の方にもサポートいただきながら授業を企画しました。今回は、算数や数学の力を使う必要があるクイズを解いたり、他の科目と数学が関連する問題に取り組みしてもらいました。参加した小中学生は解くことができたという達成感や、周りの人と一緒に考えながら問題を解き進めていくうちに、少しずつ楽しさに気づいていくように見えました。

私自身この経験を通して、勉強に対して「教える」という新しい視点を持つことができたと同時に、教えることの難しさも学びました。問題を解く上でどのように誘導していくか、また、考えて解く力をどのように身につけてもらうかは、教える側も経験や実践を通して学んでいく必要があると気づきました。



株式会社なつかしの森が運営するラムネMILK堂松江店で訪問調査を行った際の様子。



内村さんが開発した焼き芋鉢。



自然科学研究科
農生命科学専攻 1年
内村 裕司 さん



収穫作業も体験。収穫の大変さや農家さんの様々な工夫を知ることができました。



飯南町役場において、内村さんが開発した焼き芋鉢の披露会も行いました。

Case 1

飯南町

飯南町産サツマイモの 販売方法の改良提案

焼き芋調理装置を開発 高糖度の焼き芋を手軽に

飯南町の豊かな土地で生産されるサツマイモは、ミネラル豊富で高糖度なのが特長です。私は飯南町の「株式会社なつかしの森」でインターシップを行い、同社が運営する店舗で調査を行った結果、壺焼き芋の製造には高濃度の一酸化炭素が発生すること、焼き上がりまでの時間や手間の労力が大きいことが分かりました。そこで、電気ヒーターを使用し、植木鉢を加工して焼き芋が調理できる装置（焼き芋鉢）の開発に取り組みました。販売可能なレベルの焼き芋を調理できるよう、温度や時間を変えて何本も調理し、糖度測定だけでなく食味試験も重ねました。試行錯誤を繰り返して、甘くて美味しい焼き芋が焼けた時はとてもうれしかったです。

普段研究で扱っている作物を、農家や企業の立場から販売促進するためにはどうすればよいかを考え、取り組めたことは貴重な経験になりました。ものを売ることの難しさを痛感すると同時に、自分で考え行動することの楽しさも知ることができました。

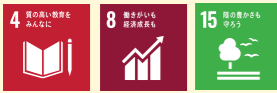
Vol.51 CONTENTS

- 留学生・留学体験紹介 09
- 島根大学の研究・地域貢献事業紹介
 - ①法文学部 岩本 崇 准教授 11
 - ②総合理工学部 廣富 哲也 准教授 13
 - ③生物資源科学部 深田 耕太郎 助教 15
- 社会で活躍する卒業生 17
- たたら通信 19

- しまだい便り 21
- 学生広報サポーター企画 23
- サークル紹介 24
- 島根大学支援基金より 25
- 読者プレゼント 25

企画・制作
株式会社メリット
デザイン
有限会社node
タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

表紙/木次線プロジェクトでフィールドワークを行う学生たち
※感染防止に努めた上で、マスクなしで撮影を行っています。



24時間の行動を記録。野草や飼料、糞サンプルを採取しました。



傾斜地で放牧させるため、牛の足腰が頑健であることが特長。



知夫村の平木村長との面談の様子。



移動や食草時のエネルギー消費量を推定するため、牛にGPSと加速度センサーを取り付けます。



自然科学研究科
農生命科学専攻
農林生産学コース 2年
河路 大毅 さん

畜産農家では驚きの連続!

協力して頂いた農家さんは60頭以上の繁殖雌牛を飼養しているのですが、呼ぶと牛たちが寄ってくるように、とてもしっかりと管理されていて驚きました。毎日の健康チェックの際に良く通る声で「オオーイ」と叫ぶと、山上から牛たちが続々と下りてくる様子が印象的でした。



Case 4

隠岐・知夫村

若手農家支援を目的とした飼養管理マニュアル策定

放牧飼育のノウハウのマニュアル化を目指す

隠岐諸島では放牧を主体とした和牛の繁殖と肥育が盛んに行われ、畜産部門は島の産業でも非常に大きなウエイトを占めています。また、豊かな自然と多数の牛が放牧されている景観は観光資源としての役割も持っています。しかし、放牧飼育は牛の精密な栄養管理が難しく、長年の経験や知識が必要になります。今回の事業では、U・ターン等で新規就農した若手農家の支援を目的として、冬期に補給する飼料の給与量などを定めた飼養管理マニュアルの策定を目指しました。また、家畜の栄養を専門とする研究室として、知夫村役場の担当者の方や現地の農家さんとの意見交換を行いました。現地の農家さんとの交流は新鮮なことばかりで、牛によく話しかけて可愛がるという接し方のこだわりや、毎日の体調管理などの徹底した個体管理には特に驚きました。

元々は地元に戻り畜産農家や企業等に就職するつもりでしたが、その魅力に惹かれるようになり、現在は隠岐諸島での新規就農を目指しています。



Case 3

雲南市

若者の視点で魅力発信
き♡線おうえんプロジェクト



1~3.昨夏から秋にかけてのフィールドワークの様子。4.昨年12月には、フィールドワークを経て感じたこと、これからすべきことについて話し合ったことを沿線の方に伝える中間発表を行いました。



教育学部
特別支援教育専攻 3年
駿馬 香穂 さん

JR木次線のInstagramぜひ見てください!

Instagramは雲南市役所の職員さんと、JRさんと、私たち学生が共同で使っている公式アカウントです。タグ付けやハッシュタグ、リンクを貼る、動画の更新など試行錯誤しています!

JR木次線のInstagramはこちら!



現地を歩いて情報収集
発信方法にも工夫

私は雲南市出身で身近にJR木次線があったため、現地を知る大学生として、魅力の再発見や情報の発信で力になれたらと思い、雲南市役所のプロジェクトに参加しました。約半年をかけて木次線の雲南市内の各7駅を巡り、駅周辺の魅力を見つけるフィールドワークを重ねながら、収集した情報を分担して、Instagramで日々投稿しました。SNSで情報発信する際には、地域の方やファミリー層、鉄道マニアの方など、どのターゲットに届ける内容なのかを意識し、写真の選択や文章も工夫しました。

沿線には、地域の方々が大切にしていた小さな魅力や観光スポットがたくさんある一方、駅からの距離が遠く、二次交通の充実が必要であると思いました。課題を解決する手段として、魅力を学生に伝えるツールの作成や二次交通の地図や時刻表の作成など、気軽に木次線を利用してもらえるような仕掛けが必要だと考えています。

今回の経験を踏まえて、地域に寄り添いながらアイデアを提案する発想の柔軟さが大切であると学んだので、今後には活かしていきたいと思っています。